

評価：「A：たいへんよく取り組んでいる」「B：よく取り組んでいる方である」「C：少し改善（努力）することがある」「D：まだ改善（努力）しなければならない」

	評価項目（指標）	○実践内容 ◆具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析による成果と課題	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の向上	1 分かる！・できる！授業の展開	○チェックポイントに基づく授業改善 ○児童一人一人の課題の明確化 ○基礎的内容の繰り返し指導 ◆学校評価（基礎学力項目）の全体平均3.2以上	○授業研究会（主題研究）を中心とした日々の授業改善 ○授業内における漢字・計算を図るための繰り返し練習する時間の設定 ○朝の時間、休み時間を活用した個別指導の充実	B		◆学校評価の結果…3.3 ○県が出している授業改善のポイントをもとに授業を行ってきた。児童の多くが授業が分かりやすいと回答している。 ○漢字・計算などの基礎的な学習を授業の中で行ってきた。前の学年で学習した計算の定着が不十分な児童もいるので、朝の時間の練習も継続していく必要がある。	B	読書や宿題に関する課題については、家庭との協力が必要と思われる。また、時間や距離の課題はあるが、椎葉村図書館の利活用も考えてみてはどうだろうか。
	2 読解力の向上	○読解力の知識・技能の指導と要約活動推進 ○読書活動の推進（目標冊数1350） ○落語指導の充実 ◆学校評価（読解力項目）の全体平均3以上	○問題集を活用した読解力の向上と要約活動の推進 ○読書目標の設定と、縦割り班ごとの読書量のグラフ化 ○ワークシートを活用した落語解釈の指導の工夫と5つのポイントを生かした表現力の向上	C	B	◆学校評価の結果…2.3 <学校での貸出1513冊・一人あたり168冊> ○読解力や要約する力の向上につながる問題集を朝の時間に取り組んできた。効果的なので継続して取り組んでいきたい。 ○家庭での読書が少ない結果だった（学校評価「家での読書」2）。月1回の家読では難しい面もあるので、学校において、隙間の時間に読書をする手立てを取り、読書の楽しさを味わわせ、トータルでの読書時間の向上を図る必要がある。		
	3 学習態度・学習習慣の定着	○ていねいな文字の指導 ○家庭学習の充実 ○前日準備の徹底（忘れ物0） ◆学校評価（学習習慣項目）の全体平均3以上	○丁寧に書く指導と学習帳や自学帳の提示・紹介 ○進んで取り組んでいる児童への積極的な称賛と個に応じた声掛けや指導の工夫 ○連絡帳への前日準備の明記と自己評価	B		◆学校評価の結果…2.5 ○丁寧に書く大切さを朝の活動や全校朝会などで呼びかけてきた。しかし、丁寧なノートをお手本とするなどの具体的な指導が不足していた。 ○宿題を家でしっかり行うことに不十分な児童が見られた。全校懇談会で保護者にも呼びかけ、連携して指導していく必要がある。		
豊かな心の育成	1 基本的生活習慣の定着	○「よい子の約束」「不土野っ子あたりまえのこと4ヶ条」の徹底 ◆学校評価（4ヶ条に係る項目）の全体平均3以上	○月目標チェック週間での評価と指導 ○朝の会での指導（教師の話）と日常指導	B		◆学校評価の結果…2.9 ○約束4ヶ条について、朝の会や全校朝会を中心に指導を行ってきた。「あいさつ」「履き物ならべ」は、概ね良好である。 ○「言葉遣い」に課題が多い。相手の立場を考慮することや、「使った方がいい言葉」「使ってはいけない言葉」を意識させる指導を継続していく必要がある。	B	相手を思いやる児童が増えてきているように感じる。「抱っこ宿題」の取り組みは、自己肯定感の醸成や親子の愛着形成にとっても良いと思われるので、定着できるように取り組んでいただきたい。
	2 思いやりの心と命を大切に教育の推進	○縦割り班の活動の充実 ○道徳科の工夫・改善と評価 ◆学校評価（思いやりに係る項目）の全体平均3以上	○縦割り班不土野キッズによる集会活動等の実施 ○授業記録をもとにした評価 ○参観日における道徳の授業の実施	B	B	◆学校評価の結果…3.4 ○基本的に全員やさしい児童である。縦割り班の中で、相手を思いやる場面がよく見られる。 ○一方で、自己肯定感をもっと高めた方がよい児童もいる。日常生活や道徳の中で、自分のよさを振り返る指導をしたり、「抱っこ宿題」などで愛されている実感を育てたりする取組をしていく必要がある。		
	3 危機管理と安全指導の徹底	○危機管理マニュアルの改善 ○安全点検と迅速な修繕 ○児童の安全意識の向上 ◆学校評価（安全に係る項目）の全体評価3.2以上	○危機管理マニュアルの充実と周知徹底（洪水時避難計画・避難所運営マニュアルの追加） ○児童・職員による安全点検（毎月）の工夫・改善	B		◆学校評価の結果…3.3 ○危機管理マニュアルの共通理解や、村役場・地元消防団と連携した避難訓練の実施により、実際の場面を想定した安全対策ができた。 ○児童と一緒に安全点検を行うことで、児童にも危機意識を高めさせるとともに、修繕も迅速に対応できた。		
たくましい体の育成	1 体力の向上	○個に応じた目標の設定 ○体育の時間や休み時間の運動量確保、 ○持久力、握力、柔軟性が向上する指導 ◆柔軟性の調査で4月から向上した児童100%	○水泳・運動会・持久走大会での個人目標の設定 ○外遊びの啓発、合同体育の実施 ○持久走、握力、柔軟性が向上する運動を取り入れた授業の実践（なわとび、柔軟運動等）	B		◆柔軟性の調査で4月から向上した児童…100% ○運動に関する行事では、個人目標を設定し取り組ませてきた。目標を達成する児童が多かった。 ○柔軟性が従来の課題であった。朝のストレッチを中心に屈伸運動を行い、調査では全員の柔軟性向上を確認できた。	B	柔軟性や体力の向上が見られる。早寝・早起き・朝ご飯は、家庭のサイクルを家族ぐるみで整えるような取り組みと併せて、食のマナーについても指導をお願いしたい。子どもたちが、昼休みに外遊びをしていると、地域の人も元気をもらうことができる。
	2 健康の保持・増進	○早寝・早起き・朝ご飯の生活リズムの習慣化 ○歯磨き指導の充実 ◆学校評価（生活リズムに係る項目）の全体平均3.3以上 ◆むし歯治療率100%	○毎朝の健康観察時のチェック ○保健だよりや治療勧告による保護者への啓発 ○保護者と連携した生活習慣についての指導 ○毎日の給食後の歯みがき指導 ○学校歯科医や養護教諭による歯みがき指導 ○個別の健康相談での治療勧告	B	B	◆学校評価の結果…3.1 ○「朝ご飯」は定着しつつある。「早寝・早起き」について、保護者の評価が低い。学校保健委員会で実施した、親子で生活を見直す活動を、今後も実施する必要がある。 ◆むし歯治療率…60%（保有者5人。治療済3人、治療中2人） ○再度、個別に治療勧告を行っていく。		
	3 食育の推進	○食に関する指導と「弁当の日」の確実な実施 ◆学校評価（食に関する項目）の全体評価3.5以上	○食育参観の実施（5月） ○学級担任と養護教諭が連携した食に関する指導 ○段階をふまえた「弁当の日」の取組	A		◆学校評価の結果…3.7 ○「弁当の日」は、保護者の協力を頂き、食の大切さを考えたり、親子で触れ合ったりする良い機会となった。 ○箸の持ち方などマナーに課題があるので、器具を用いた指導を検討していく。		
開かれた学校づくりの推進	1 積極的な情報発信	○学校日より、学級通信の定期的な発行 ○HPの充実 ◆学校評価（情報発信に係る項目）の全体平均3.4以上	○PTA・学校評議員会の計画的な実施（年間2回） ○学校HPの毎日更新、内容充実（学校目標との関連記載） ○役員会・常会等での積極的な情報発信と協力依頼	A		◆学校評価の結果…3.7 ○HPはほぼ毎日更新し、内容も工夫することで、児童の様子や教育活動の意義を発信することができた。 ○役員会では、学校の立場をしっかりと伝え、地域と連携して活動を行うことができた。	A	コロナ禍のなかでの取り組みで、困難さはあったと思うが、対策をとりながら、地域の協力を得て、子どもたちの地域活動がしっかりと行われていた。
	2 地域人材の積極的活用	○民謡・落語の外部指導者の招聘 ○地域学習の充実（総合的な学習の時間等） ◆学校評価（地域連携に係る項目）の全体平均3.3以上	○民謡・落語指導者との連絡・調整（活動2ヶ月前に完了） ○「総合的な学習の時間」の内容検討及び支援（担当職員） ○地域人材の効果的な活用と連絡体制の整備・充実	A	A	◆学校評価の結果…3.5 ○師匠来校が2回実現し、十分な落語活動ができた。 ○総合的な学習の時間は、3～6年生までを見通した内容を計画的に実施することができた。また、魚しよく体験、ふれあい参観など様々な活動で地域の方の協力を得ることができた。		
	2 地域愛の高揚	○地域の行事への積極的参加と、民謡・落語指導の充実 ◆学校評価（地域愛に係る項目）の全体平均3.2以上	○地域行事に関する資料の収集と児童への理解推進 ○ふれあい参観日・学習発表会等の内容充実（相手を意識した発表の工夫等）	A		◆学校評価の結果…3.5 ○行事や産業など地域に関わる内容を計画的に授業に取り入れることができた。特に、産業面の学習や、地域の方との交流が、不土野地区のよさを実感することに繋がっていると考える。		

【校長所見】

○ 本年度も一人年間2回の研究授業を実施し、授業力向上及び学力向上に取り組み、成果を得ることができた。情報機器を効果的に活用するとともに、複式指導での職員の指導技術も向上してきた。
○ 基本的な生活習慣は家庭と連携していくとともに、「不土野っ子あたりまえ4か条」については、次年度も継続して重点指導を行い改善を図ってきたい。さらに、やさしい言葉遣いのできる児童、自分を好きな児童の育成を目指したい。
○ 保健についての手立てをしっかりと実践できたが、むし歯治療率が現在60%であり個別勧告を継続してきたい。体力づくりについては、個人目標設定と達成できた児童への表彰を行ってきたので、体力テストにおいてもA・B判定の児童が多い状況である。
○ 学校便り・学校HPを通じて教育活動の意図や成果を発信することができた。地域の中での教育活動、また地域の方の協力が充実しており、今後も地域連携をさらに深めながら、不土野愛の高まった児童を育成していきたい。